



## 「家を買う」ということ

神奈川県・神奈川県立川和高等学校 1年 青山 莉緒

私達一家は、今年の春家を購入した。新築の戸建てである。父の仕事上、私達は転勤族だったので前々から引越の可能性が予想されていた。それにより、今まで賃貸マンションに住んでいた。しかし、私が高校に進学したこと、弟も中学に進学したこと、母が気に入るパート先を見つけたことが重なり、家族の中で今の土地から動きたくないという気持ちが募っていった。そこで「家を買う」という案が浮上してきたのである。

「家を買う」ということは、万が一父に転勤があった時、家族とは離れて父だけ単身赴任になるというリスクがある。そのことについても家族で話し合い覚悟を決めた。今年、転勤する可能性が高かったので、家探しを急ぐ必要があった。そこで、パソコン、不動産会社、チラシなどあらゆる方法を使って家探しを始めた。

まず最初に、家族で「家の条件」について話し合った。金額、駅からの距離、中学の学区、戸建てがよい…などの意見が出た。条件がちゃんとそろった家がそんなに早く見つかるだろうかという不安があったが、想像よりも早く、家探しを始めて約3ヶ月で発見することができた。しかし、少し気にかかる部分があった。それは、その選んだ家が初めに考えていた予算より数百万円高かったことだ。でも、気に入る物件だったので家族会議の結果「一生に一度の買い物だから、気に入る物がよい」ということで、今の家を購入することになった。私も家族で協力して節約すれば何とかかなると思ったからだ。しかし、「家を買う」ということを理解しきれない私は、その後何回か驚かされた。

まず初めに驚いたのは、仲介手数料についてだ。「家を買う」と決めてから、私も両親と一緒に不動産会社について行くことになった。知らない用語がたくさん出てきたりと、わかることは少なかった。けれど、一つ疑問に思ったことがあった。それは、私が書類（チラシ）で見た家の金額と違う金額が話の中で

多く登場していたということである。話の中の金額の方が高かった。そこで、どうしても気になった私は、帰りの車の中で両親に聞いてみた。そして、初めて仲介手数料という存在を知った。まさか、家本体のお金以外でこんなに高いお金を支払うことになっているとは思わなかったからだ。

この事件をきっかけに、「家を買う」にあたり家本体の金額以外で、実際どの位の出費があるのか調べてみることにした。

まず、父に家本体以外で支払っているお金について尋ねてみることにした。すると、仲介手数料以外にもローンの利息、銀行保証料、火災保険料、地震保険料、登記費用などなど多くの費用がかかっているとわかった。そして、それら一つ一つの金額は、10万円単位のものばかりで正直驚いた。きっと私みたいに知識ゼロの人が、チラシだけで値段を判断していたら予算オーバーで倒れていたかもしれない。

もう一つ、かかせないのが引越料金である。たとえ、節約を目指して身の周りの服や本、小物を自力で運んだとしても、運びきれない物がある。タンス、ベッド、本棚などの大型家具だ。そのような物は、さすがに専門業者に頼んで運んでもらうしかない。私の新しい家は、前の家から徒歩5分ととても近かったので、あまり業者の力を借りなくてもいけるのではないかと考えたこともあったが、やはり無理である。それどころか、冷蔵庫が大きすぎて玄関から入らなかったのでも2階から釣り上げて家に入れた位である。

一般的に、どの家庭でもだいたい支払うことになるお金はここまでだが、私はもっと他にも「家を買う」ことで生まれてくる出費があるのではないかと思い、さらに生活の中を観察してみることにした。

最初に私が関係しているのではないかと感じたのは家電製品である。新しい家の中を見まわすと、前の家で使っていた家電製品の姿が見当たらないことに気づく。引越を機に多くの家電製品を買い換えたのである。私の家では、冷蔵庫、洗たく機、そうじ機、電子レンジなどほとんどの物を買って換えてしまった。親は「もう古いから…」と口癖のように言っているが、きっと前の家のままだったらいくら古くても「使えるから…」と言って買い換えることはなかっただろう。やはり「家を買う」ということで生まれた出費である。そして、今の時代忘れてはならない家電製品がある。エアコンだ。エアコンは、取り付けるのにお金

がかかるが、取り外すのにもお金がかかるため引越の敵である。けれど、引越すことで部屋が多くなる場合、さらにエアコン自体を買う必要がある。買う人と買わない人がいると思うが、私の家の場合4台分のエアコン代がかかることになってしまった。

そして、もう一つ大幅な買い換えをしているものがある。家具だ。今まで住んでいた賃貸だと、この先の引越を考えて大型な物や高価な物を買うことができなかった。家自体が狭いので家具の量も少なくなる。一方家を買うことで、家が広くなる。そして家具も今までの物だと物足りなくなる。さらに、せっかく新しい家だからなるべくオシャレにしたいという欲が出てくる。そこで、また多くの出費が出てきてしまうのだ。今まで「家具」と一まとめに言ってきたが、具体的にいうと本棚、たんす、ベッド、照明、ソファ、食器棚、カーテン、カーテンレール、テレビ台、食卓用テーブルセット、ドレッサーなど、非常に多くの物を買って換えていることがわかる。

家を買うことで、家自体のお金と引越料金での出費は予想内に入る気がする。しかし、家電製品代や家具代は個人個人によってバラツキが出てくるので予想外にかかってしまっているのではないだろうか。引越をすると、「これを機に…」や「もう古いから…」という言葉がよく耳に入る。それは、引越による人間の心理状況が多く関わっているのだと思う。家自体が新しくなるのだから、家具も新しくすることで、新しい生活、新しい一歩を踏み出せるような気がするのだ。そして、今まで思い描いていても実現することのできなかった理想の家に近づけられるチャンスなのである。なので「家を買う」ということで、今までたまっていた理想の家像が爆発してどんどん膨らんでくる。ここまでくると、「家を買う」ということは、「家自体を買う」という簡単なことではなくなってくる。もっと深いのである。私達家族は、一体今回の出来事で、家の本体以外にいくらお金を使ったのだろう。引越したのだから、良い区切りとして自分の部屋を可愛くしたい。それは、家族が家具を買ってしまうことと同じだと思う。だから気持ちもわかるし、否定しない。ただ、私が今回学んだことは、何回も言うようだが「家を買う」ということが、単に家という物体を買うという意味だけではなかったということである。家というのは、一生に一度の大きな買い物であり、そこで自分の人生の終わりをむかえることになるかもしれない重要な場所であ

る。だからこそ、余計力が入るのかもしれない。私は、家を買うことについて甘く見ていたかもしれない。チラシの金額だけで理解し、あたりまえのように家が広くなっただけだと感じていた。しかし、実際そうではなかった。私が大きくなって、もし家を買うことになったら、そういったことも計算して買わないといけないと思う。父の話聞いた所、父でもこんなにお金がかかるとは思っていなかったそうだ。「予想外だ」と言っていた。父でも予想外なのだから、私のときは、ちゃんと事前にどういった物を使いたいのか、買い換える物は何かなどを計算に入れておこうと思う。でないと、きっと予想外の出費が増えすぎてお金の管理ができなくなるだろうから。

引越が一段落し、少しゆっくりできるようになった頃、「ピーンポーン」チャイムが鳴った。相手は、隣の家の人だった。私達の家は、他の2つの家と3棟同時に建った。私の家族が一番初めに住み初めたので、隣の家の人が挨拶に来たのだ。手にはお菓子を持っていた。ああ、これも出費だ。私は、頭の中の買う物リストに新たな項目を書き込んだ。

